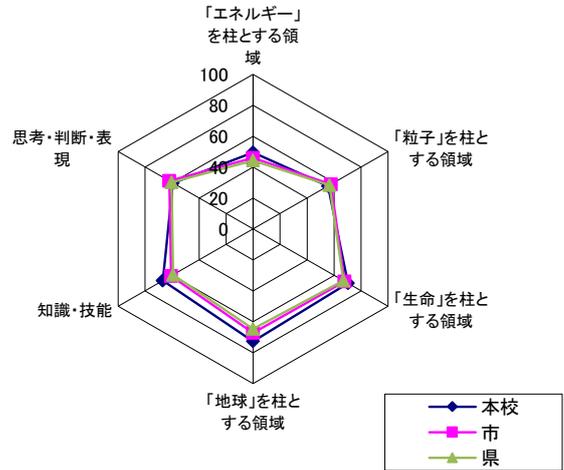


# 宇都宮市立東小学校 第5学年【理科】分類・区別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	49.5	46.0	44.3
	「粒子」を柱とする領域	55.5	57.7	56.6
	「生命」を柱とする領域	70.3	67.8	66.9
	「地球」を柱とする領域	72.7	67.2	64.6
観点	知識・技能	66.9	60.8	59.2
	思考・判断・表現	59.4	62.1	60.4



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	<p>平均正答率は、県の平均を5.2ポイント上回っている。</p> <p>○乾電池のつなぎ方とその名称を答える設問では、県の平均より15ポイント以上高いなど、よく理解している。</p> <p>●簡易検流計の針のふれ方から分かることを答える設問では、正答率は県の平均と同程度であるが、無回答率が18.2%であり、県の平均より6ポイント以上高い。</p>	<p>・乾電池の数やつなぎ方を変えたときのモーターの動作について簡易検流計で調べる際、考えたことを回路図などを用いて表現させたり、「電流」「直列つなぎ」「並列つなぎ」という言葉を使って説明させたりする活動を取り入れることで、電流の大きさや向きによるモーターの回り方、検流計の針のふれ方の違いを理解できるよう指導を工夫していく。</p>
「粒子」を柱とする領域	<p>平均正答率は、県の平均とほぼ同程度である。</p> <p>○金属の温度と体積の変化や、あたためたときの空気と金属の体積の変化を比較できるかを確認する設問では、県の平均より4ポイント以上高いなどよく理解している。</p> <p>●「ジャムのびんをあたためるとふたがあく理由について答える設問や水を温めたときに発生するあわの正体とそう考えた理由を記述する設問では、いずれも県の平均を大きく下回っている。</p>	<p>・温度によるものの体積変化を利用したものづくりの例や、生活の中の具体物を紹介するなど、各単元において、日常生活と学習内容のつながりを意識させながら理科の有用性を実感できる授業を実践していく。</p> <p>・実験を行う際に、結果がどうなるかを予想してから実験をしたり、実験結果を考察し、自分の言葉でまとめたりするなど、常に意識して指導することにより、科学的な見方や考え方、思考力や表現力を高められるようにする。</p>
「生命」を柱とする領域	<p>平均正答率は、県の平均を3.4ポイント上回っている。</p> <p>○季節ごとの動植物の成長や活動の様子については、どの設問も県の平均より高く、よく理解している。</p> <p>●「骨や筋肉のつくりと働き」については、名称はよく理解しているが、腕を動かしたときの筋肉の様子については、正答率が県の平均よりも7.6ポイント低く、理解が不十分である。</p>	<p>・腕を動かしたときの筋肉の様子や、ヒト以外の動物の体のつくりや動く仕組みなど、実験や観察が難しい内容については、模型や図書資料、映像資料などの視聴覚教材を積極的に活用し、理解が深まるようにする。</p> <p>・「季節と生物」については、年間の活動の見通しをもって行い、季節による気温の変化や、動植物の様子が分かるように、ICT機器を活用しながら観察記録をまとめるなど工夫する。</p>
「地球」を柱とする領域	<p>平均正答率、県の平均を8.1ポイント上回っている。</p> <p>○月や星の動きについては、どの設問においても県の平均を上回っている。特に、星の色についての問題では、県の平均を23.1ポイントほど上回っていることから、内容の定着が十分に図られている。</p> <p>●「天気と一日の気温」について、雨の日の一日の気温の変化の様子を記述する設問では正答率が県の平均より6.4ポイント低く、無回答率も高い。</p>	<p>・温度計の正しい読み取り方を指導し、正確に気温を測ることや、折れ線グラフの表し方と読み方を押さえるなど、一日の気温の変化と天気を正確に記録できるようにする。また、気温を調べるときに、調べた時刻と気温だけでなく、空の様子を写真に撮っておくことで、気温の変化の仕方を雲や太陽など空の様子と関係付けて考えられるよう、観察・記録の仕方を工夫していく。</p>